



学校評価だより

令和6年度 後期号

令和7年3月13日

京都市立正親小学校

校長 長谷川 英司

後期学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。

1~2月に、後期の学校評価アンケートにご協力いただきました。多数ご回答いただき感謝申し上げます。

前期と同様に、それぞれの質問項目に対して「そう思う」「だいたいそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4段階で回答していただきました。数値は割合(%)を示しています。

この結果を保護者・地域・教職員で共有し、アンケート結果やそれに対するご意見をもとに、本校の教育活動の中で、継続発展すべきところ、改善すべきところを明らかにし、今後の教育活動に生かしていきたいと思います。3月には、学校運営協議会理事会を開催し、この結果をもとに理事の皆様よりご意見をいただきました。



	評価項目	そう思う	だいたい そう思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない
徳①	学校が楽しい	児 65	29	4	2
	児童が、毎日楽しく学校へ通っている。	保 49	45	5	1
		教 56	44	0	0
徳②	自分からあいさつをしている	児 46	42	9	3
	児童が、自分からあいさつをしている。	保 30	57	13	0
		教 38	56	6	0
徳③	友だちにやさしくしている。	児 57	40	2	1
	児童が、友達に優しくしている。	保 47	50	3	0
		教 25	75	0	0
徳④	たてわり活動が楽しい。	児 70	25	4	1
	児童が、たてわり活動を楽しんでいる。	保 49	44	6	1
		教 62	38	0	0
徳⑤	「学校の決まり」を守っている。	児 50	45	4	1
	児童が、「学校のきまり」を守っている。	保 52	45	3	0
		教 38	62	0	0
知①	勉強が楽しい。	児 48	34	13	4
	児童が、楽しく勉強している。	保 28	54	15	3
		教 44	56	0	0
知②	すすんで学校での学習に取り組んでいる。	児 44	42	12	2
	児童が、進んで学校での学習に取り組んでいる。	保 27	54	18	2
		教 25	75	0	0
知③	授業中考えたことを発表している。	児 33	33	29	5
	児童が、自分の考えたことを伝えている。	保 17	60	21	2
		教 19	81	0	0
知④	先生や友達の話をしっかりと聞いている。	児 57	38	4	1
	児童が、人の話を聞いている。	保 29	59	9	3
		教 19	81	0	0
知⑤	すすんで読書をしている。	児 57	22	17	4
	児童が、進んで読書をしている。	保 38	25	28	9
		教 44	56	0	0
知⑥	家の学習をきちんとしている。	児 51	31	14	4
	児童が、家庭での学習をしている。	保 35	41	21	3
		教 6	88	6	0

体①	「早寝・早起き・朝ごはん」がきちんとされている。	児	38	44	13	5
	児童が、「早寝・早起き・朝ごはん」を守っている。	保	34	47	15	4
体②	すすんで体を動かしたり、運動をしたりしている。	教	19	81	0	0
	児童が、進んで体を動かしたり、運動をしたりしている。	児	63	29	6	2
	話したいことを先生に話している。	保	47	38	14	1
	学校の出来事などを家の人へ話している。	教	38	62	7	0
	学校の出来事などについて親子で対話している。	児	39	39	19	3
	保	44	45	11	0	0
	教	25	75	0	0	0
	地域の行事に参加している。	児	29	32	24	15
	PTAや地域の行事に参加している。	保	18	43	33	8
		教	10	69	13	0

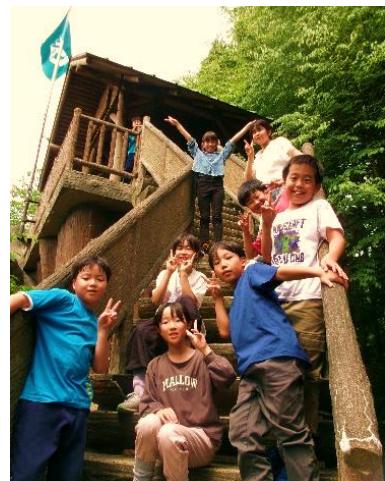


これらのデータを本校の「めざす子ども像」に対する実現度として分析しました。また、児童・保護者・教職員（以下、三者）の数値を比較することで、より有効な手立てを追求していきます。

人の言葉に耳をかたむける子

知④「先生や友だちの話をしっかりと聞いている」では、前期同様三者とも9割前後肯定的な回答ですが、その内訳として保護者と教職員の「そう思う」の回答率が前期よりアップしています。「聞いている」という言葉には様々な捉え方がありますが、正親校の子どもたちの「素直さ」を評価していただいたのでしょうか。授業では、先生の話を聞く以上に友達と話したり発表を聞いたりする時間があります。「人の言葉に耳をかたむける」ことによって、言葉を理解するだけでなく、疑問に感じたり新しい考え方に出会ったりすることで、思考が働き深い学びにつながります。今学校で求められている「主体的・対話的で深い学び」は、このように「人の言葉に耳をかたむける」ことから始まるのではないかでしょうか。

徳③「友だちにやさしくしている」では、三者とも変わらず9割以上が実現できていると回答しています。正親校の子どもたちは、友達に対しても大人に対してもとてもみんなやさしく接することができます。時にはけんかや感情のままに乱暴な言葉を発することもありますが、子どもはそれを繰り返しながら成長していくものであって、そのような場面では、「いい勉強になつたね」「次に気をつけよう」と温かく伝えています。そして、子どもたちの優しい行動や言動に対しては、「素敵だね」「優しいね」と大いに認める声かけをしていきたいものです。



みんなが笑顔の学校

徳①「学校が楽しい」や徳④「たてわり活動が楽しい」は、前期に引き続き大変よい評価でした。子どもたち、保護者の皆様、そして教職員との関係が良好であるといつてもよいと感じています。

京都市のみならず、全国的に学校では働き方改革を進めております。これまで標準授業時数を大幅に超えていたことが教職員にも子どもたちにも負担となっており、国から見直しを求められているのが実情です。そのため、教職員がゆとりをもって子どもたちと向き合う時間を確保し、子どもたちの負担も軽減して主体的にのびのびと学習に向かう環境をつくる工夫を重ねています。

今年度は、授業時間を4校時や5校時までとして放課後の時間を生み出したり、学校行事を見直したりして、カリ

キュラムの再編成などを少しずつ進めてきました。これまで保護者の皆様に応援していただいた行事がなくなり残念だという声もありましたが、実はなくなったのではなく、形を変えて実施しているというのが学校としての姿勢です。学校の考えを十分にお伝えできていないことを痛感しております。

また、学級のお便りも形を変えました。印刷や作成時間を削減し、主に学習予定を「すぐーる」で配信しております。そして、これまでの学級通信でお伝えしていた学級の様子などはホームページに掲載しております。ただ、毎週のお便りを楽しみにしておられた保護者方からはさみしく感じておられるという声も聞かれます。こちらも保護者の皆様の理解を得るために努力を続けていく必要があると思います。学校からの発信方法が変化したことによって教職員の仕事の仕方も変化し業務時間は大きく削減されました。今後も学校ホームページを通して、学校の様子を知っていただけたらうれしく思います。



自分で考え行動する子

知②「すすんで学校での学習に取り組んでいる」では、前期とあまり変わらない結果となりました。学校としても子どもたちの主体的な学びの姿を求めて校内研究や研修等を進めてきましたが、なかなか難しい課題です。

本来子どもは好奇心いっぱい新しいことに順応する力も吸収力も高いものです。例えば、GIGA 端末を使うようになって丸4年になろうとしていますが、子どもたちの ICT を使いこなす能力の高さには日々驚かされます。GIGA 端末を使えば、知りたいことが調べられたり面白い情報を得られたりします。子どもたちの好奇心をかき立てるこの便利な道具をうまく使いこなすことは、進んで学ぶことにつながると考えます。今後も GIGA 端末の有効的な活用を進めながら、主体的に学習できるような授業展開について模索していきたいと思います。

また、一斉授業や教師主導の授業では、一人一人の子どもたちの学習進度に合わせた授業が難しく、先生の指示を待つ時間もあります。そこで、個別最適な指導が必要となり、これを実現することで子どもたちは自分のペースで、めあてや課題に向かって次に何をすればよいのかを考えることができます。

宿題についても校内で議論を進めています。繰り返し練習問題を重ねることで定着する学力がある一方で、宿題に意味を見いだせず大きな負担を感じている子どもが一定数いることも現実です。授業だけではもちろん学力は身に付きませんが、家庭での学習についても見直すことが必要ではないかと考えています。

学んだことをしっかり身に付ける子

知⑥「家での学習をきちんとしている」については、保護者の「そう思う」の数値がアップしました。子どもたちの頑張りを認めてもらうことはうれしいことです。学校としては、今年度、夏休みと冬休みの課題について子どもたちが主体的に取り組めるよう少しずつ見直しを始めました。

例えば夏休み明け作品展をめあてにどんなことをしようかと考えるのは、子どもたちの主体性を促す課題であると考えます。また、リコーダーの発表会に向けておうちでも演奏してみようとか、全市5・6年生で実施しているジョイントプログラムや4年生のプレジョイントプログラムの前に「復習プリント」に取り組むなど、めあてをもつことで子どもたちは「やってみよう」「がんばろう」と思えるのではないかでしょうか。

時に子どもたち（保護者の方も一緒に？）の頭を悩ませる「自主学習」も、自分が興味をもって取り組むことを見つけられたら楽しく続けられると思います。

知③「授業中考えたことを発表している」では、児童の「あまりそう思わない」「そう思わない」の数値が最も多く、前期に引き続き本校の課題であるといえます。しかしながら、教職員の数値は100%肯定的です。

「発表」というと一斉授業で手を上げて発言するというイメージがあると思いますが、前期の学校だよりもお伝えしたように、学校ではそれだけで評価していません。ペアやグループで意見を交換することも発表で

す。考えを自分の言葉で話すことが大事であると、繰り返し子どもたちに伝えていきたいと思います。

思いを言葉にすることが難しい子どもは一定数います。何気ない会話でよいので、ご家庭でも会話をする時間ができるだけ意図的に設けていただけすると学力アップ間違いなしです。



学びのすべてを生かして問題解決する子

三校合同②の項目でもある「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している。」については、児童・保護者の「あまりそう思わない」の回答が15%前後ありました。

難しいことに挑戦するためには、「やってみよう」「できそうだ」と感じなければできませんが、そう思うためには難しいところを解決する必要があります。これまでの経験や知識を使って問題を解決できないなら、経験や知識を補うことを周りがサポートします。経験も知識も備わっているならそれをどのように活用するのかと一緒に考えます。それでも挑戦できないときは少し背中を押してあげるのか気力が満ちるのを待つか見極める必要があるでしょう。大人が「失敗を恐れるな」と言葉をかけるより、子どもの思いを尊重しながら支援し続けることが大切です。子どものうちから小さな成功体験を重ねることは自己有用感を高め、生きる力につながります。

三校 合同 ①	自分にはよいところがあると思う。 子どもが自分にはよいところがあると思うことができるよう働きかけている。	児	59	28	9	4
三校 合同 ②	難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している。 子どもが難しいことでも失敗をおそれないで挑戦することができるよう働きかけている。	児	50	34	16	0
三校 合同 ③	自分の夢や目標を持って過ごしている。 子どもが自分の夢や目標を持って過ごすことができるよう働きかけている。	児	66	23	9	3
学①	学校が、児童の良さや可能性を伸ばすよう取組を進めている。	保	25	60	15	0
学②	学校が、学校・学級だよりやホームページなどで、取組の様子を配信している。	教	56	38	6	0
学③	授業参観や学校行事などに参加している。	保	28	60	10	2
		教	44	56	0	0
		保	41	53	6	0
		教	62	38	0	0
		保	43	51	6	0
		教	44	56	0	0

二条中学校ブロック重点項目

三校合同の評価項目「①自己肯定感」「②主体性」「③夢・目標」の内、③の教職員の「そう思う」の数値が13%増えました。教職員が前期よりも子どもたちの夢や目標を応援することを意識して教育活動を行っていることを表していると考えます。アンケートを実施した1月は不調を訴える子どもも多く、気持ちが塞ぎがちで前向きになれないことも増えますが、子どもたちを支える大人も心の余裕がなくなると応援できなくなります。

前述の通り、学校現場では、保護者の皆様のご理解とご協力を得ながら教職員の「働き方改革」を進めています。これは教職員のみならず保護者の皆様に子どもたちに寄り添う時間を生み出し、子どもたちによりよい教育環境を作り出すためであると言えます。今後も、保護者・地域の皆様の声を聞かせていただきながら、教育活動を進めてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

学校運営協議会 後期企画推進委員会 3月11日（火）19:00～ 会議室

PTA本部・地域の皆様にお集まりいただき、学校評価アンケートの結果をもとに今年度の活動について報告し、ご意見をいただきました。地域の皆様からは、子どもたちの様子をたくさん褒めていただきました。また、PTA本部の皆様には、具体的なご意見をいただきました。これから学校の様々な変化にも対応していただきながら、子どもたち・保護者・地域・教職員にとって、よりよいものにしていくための話し合いとなりました。